

1 学校教育目標		2 本年度の重点目標				
雄飛学園内進目標「元気にあそぶ学校」 久保泉小学校目標「夢をもとんで心やさい子どもの育成」 佐賀県及び佐賀市の教育方針に則り、保護者や地域の願いに応えるべく、未来の創り手となるために必要な児童の資質・能力の育成を図る。 かこいこ 「既得の知識を活用し、問題を遇って考え、問題解決できる子 他者と学び合い、自分の考えを遠くで表現できる子 やまこ 「思いやりの心をもち、友だちと仲良く活動できる子 いこいこを遠くで行い、きまりやマナーを守ることができる子 社会や地域に目を向け、人や環境を大切にできる子 たこいこ 「あそびをもって最後までがんばることができる子 あそびで、元気に気持ちよくあそぶことができる子 健康で安全な生活を実践できる子 児童の「出席」をつくり、「役割」を与え、「承認」して伸ばす教育の実践		1 「雄飛学園」めざす15歳の姿」を目指して、雄飛学園教育を推進する。 ・開発的生徒指導（出席・役割・承認）を推進する。 2 学力向上を図る ・幼保小連携や9年間を見通した小中連携を推進する。 ・国語科を中心に、思考力・表現力を育む授業実践を行い、確かな学力の習得と資質・能力の向上を図る。 ・学習状況調査の分析をもとに授業改善に取り組み、分ける授業、力をつける授業をめざす。 3 命と人権教育を推進する ・一人ひとりの子どもを理解と心の教育を充実させる。 ・支援を要する子どもへの校内体制を強化する。 4 「雄飛学園メソッド」に基づいた生活習慣や規律ある行動の定着をめざす。 5 子どもへのまなざし運動と市民性を育む地域と連携した教育を推進する。				
達成度 A:ほぼ達成できた B:概ね達成できた C:やや不十分であった						
重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む。						
3 目標・評価						
①「雄飛学園」めざす15歳の姿」を目指して、雄飛学園教育を推進する。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度 成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○小中連携の推進	・三校合同授業研究会 ・三校合同研修会 ・児童生徒間の交流	・「確かな学び部」の構想に基づき、各校の強みを生かし参加小・中学校による研修を深める。 ・「すこやかな暮らし」「豊かな心部」の構想に基づき、全員が研修に参加し小・中連携による研修を深める。 ・遠足的行事、宿泊学習、修学旅行、部活動体験等の行事を活用して、小・中学校や小・中学生生徒間の円滑な交流を図る。児童の意識調査で85%以上を指標とする。	・中学校教員は、児童の学習の様子を観察し中学校の教育課程の一助とする。小学校教員は卒業後の児童の育ちを観察し、現指導内容を再検討する機会とする。 ・宿泊学習では6年生と、修学旅行および部活動体験では6年生においてそれぞれ金立小と交流することで、金立中1生へのスムーズな接続を図る。 ・生活指導上の課題については、PTAや地域の協力を受け入れていく。	A ・秋田遠足、5年宿泊学習、6年生高峰修学旅行等を金立小と日程を合わせることで、児童同士が触れ合う機会をつくることでできた。意識調査では目標値をほぼ達成。 ・3校間で授業公開を行い、職員が相互に授業参観をする機会を設けた。小・中で授業を参観し、合同小・中での授業の仕方の相違点について考える機会となり、分かりやすい授業を小・中で一貫してつなげることにできた。 ・雄飛学園のまなざしカードを時期を揃えて実施することで、中学校として児童の協力が得やすかった。さらに、合同研修会で互いの課題について話し合った。また、スマートフォン等の情報機器の所持率や利用状況についてアンケート調査とその結果をその場で情報共有するとともに、保護者の啓蒙もできた。	・PTAや地域の行事で児童生徒間の交流が活性化できている部分も多い。今後ともうま連携をとっていきたい。職員相互の連携についても交流がより深まるよう方策を探っていく。 ・学校間の授業交流については、時間や距離の問題があり何回もできない。職員相互の連携についても交流がより深まるよう方策を探っていく。 ・それぞれ学校の独自の取組の中にも、素晴らしい実践があるので、それら他の部会で交流し合って、思い切った取り組みを入れていく。
	●志を高める教育	・開発的生徒指導（出席・役割・承認）の推進	・児童の積極的な姿勢を引き出し力を伸ばすとともに、自信を持たせるために開発的生徒指導に取り組む。	・児童の活躍の場を広く設定する。 ・児童の積極的な姿勢や努力する姿の把握に努めるとともに大いに称賛し、自信をもたせ、そこで、夢や目標に向かって努力しようとする気持をなをむ。	B ・全校部会等で雄飛学園目標に関連させながら、具体的な事例を示す等して児童に働きかけてきた。また、みんなの手本になるようなよい行いや児童の活躍について機会を捉えながら称賛したり伝えたりすることができた。 ・学年ごとや委員会、掃除等、様々な機会に活躍の場を設けてきた。	・夢や目標、志について、学年段階に応じたり、児童の実態に合わせたりしながら、学校全体で継続的に系統的に高められるようにできるようにしたい。 ・児童の活躍の場についてあまり広げることができない。もっとアイデアを出したり、思い切って任せてみることも必要だと考える。
②学力向上を図る						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度 成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	・学習状況調査結果 ・CRT検査結果	・5、6年は4月の学習状況調査結果に対して12月は1段階を指標とする。 ・4年生は12月の学習状況調査に於いて90%を指標とする。 ・2、3年はCRT検査に於いて1.0を指標とする。	・既習事項を振り返り、定着を図るようなドリルやプリントに取り組ませる。 ・家庭学習目標時間を意識させ、学習強化週間においてまなざしカードを活用する。	B ・12月調査は、6年生は県平均を上回り、5年生は県平均とほぼ同レベル、4年生は県平均を下回る結果だった。特に4年生の算数に課題がある。思考力、表現力につながる語彙力が不足している。 ・問題の読み取りの力に課題がある。 ・まなざしカードを活用しているが、学習強化週間だけの取り組みになっていた。	・既習事項をふり返り、定着を図るようなドリルやプリントを強化し、習得を十分にできるようにしたい。 ・家庭学習の力のかたを見直し、学習強化週間以外でも普段から生活よりカードなどを活用して、家庭での学習時間を意識させる。
	・授業改善状況 ・読書量及び習慣 ・スキルタイムの状況	・授業改善状況 ・読書量及び習慣 ・スキルタイムの状況	・「のめあて」「まめ」「書く活動」「話し合う活動」「振り返り」の流れを意識しながら授業を進める。 ・「児童の主体的な学習意欲の向上」を目標とし、児童の主体的な学習意欲の向上を図る。 ・「読書活動の充実」児童の意識調査85%以上を指標とする。 ・朝のスキルタイムを活用して、学力の基礎固めをする。	・授業のまとめを自分の力で書くようにすることで、思考・表現力を培うようにする。 ・まめカードや家庭学習などをチェックし、読書習慣が身に付いてきたか把握する。 ・週末は、家の読書習慣を付けたい。ブックハブの活用も検討する。また、読書状況調査委員会に調査させ、達成状況を全校に知らせる。そのとき、読書委員会がその姿を紹介する。 ・「のめあて」「まめ」「書く活動」「話し合う活動」を、フラッシュに取り組むことで、集中力を付けるとともに学力の向上につなげる。	A ・学習のめあてや単元の流れが児童に分かるように出し、学び合いができるよう指導をした。 ・学習のまとめ、振り返りを自分の言葉で書けるようになった。 ・学習強化週間ではまなざしカードを活用して家庭学習時間を意識させた。 ・個人の読書量出し、目標達成率は、約64%であった。 ・朝のスキルタイムを活用し、まめいアウトプットなど学習スキルを身につける一助となった。	・根拠を示して自分の考えを書いたり発表したりできるような指導で思考力、表現力をつける授業改善に取り組む。 ・まなざしカードを活用し、児童の家庭学習時間を意識させる。家庭学習の状況を把握する。 ・週末は、家の読書習慣を付けたい。ブックハブの活用も検討する。また、読書状況調査委員会に調査させ、達成状況を全校に知らせる。そのとき、読書委員会がその姿を紹介する。 ・「のめあて」「まめ」「書く活動」「話し合う活動」を、フラッシュに取り組むことで、集中力を付けるとともに学力の向上につなげる。
	○校内研究の充実	・研究授業 ・日常の授業	・研究授業、提案授業を通して、職員の授業力向上及び「確かな学力」につながる自分の考えを表現する力の育成をめざす。 ・「考えを伝え合う学習」児童の意識調査90%以上を指標とする。	・本時の流れや単元の流れを明確にして、子どもに伝え、思考させることを継続する。 ・様々な場面で大いに色分けさせたりする読み取りの手立てや発表の仕方、話し合いの進め方の指導の工夫に取り組む。	A ・根拠に基づいて、自分の考えを表現する力はついている。 ・「考える」「伝え合う学習」児童の意識調査の結果、90%をやり下回っていた。	・本時の流れや単元の流れを明確にして、子どもに伝え、思考させることを継続する。 ・様々な場面で大いに色分けさせたりする読み取りの手立てや発表の仕方、話し合いの進め方の指導の工夫に取り組む。
③命と人権教育を推進する						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度 成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●いじめ問題への対応	・職員研修及び組織対応の充実 ・いのちいじめを考える日の手立て	・いじめについての職員研修の充実と、いじめや問題行動に対する体制作りに取り組む。 ・アンケート実施、及び結果を全職員で共有し、いじめの早期発見と児童の実態把握に努める。	・機会あるごとに職員研修を行い、「いじめのない学校を創る」という意識を高めるとともに、いじめや問題行動に対して組織で対応できる体制作りに努める。 ・いじめのアンケートの結果を職員で共通理解をし、いじめの早期発見と児童の実態把握に努める。該当児童やクラスへの指導に生かす。	B ・年度の始めに、本校の人権・同和教育の目標や支援体制、年間計画について確認し、共通理解を深めた。 ・年間を通して、人権・同和教育についての「一人一研究」体制を推進し、実践を深めていく。 ・「QUTアンケート」について講師を招いて校内研修を実施し、1学期のアンケート結果とこれからの目標を話し、意識付けを行った。 ・いじめ・命を考える日として、月曜日のいじめについて、いじめの早期発見と児童の実態把握に努める。該当児童やクラスへの指導に生かす。 ・児童の意識調査の結果、90%をやり下回っていた。	・いじめについての研修を計画的に実施し、教職員で共通理解を深める。 ・いじめの未然防止のために、気になる事実や児童についての情報共有がよりよくできると、必要に応じて実施していく。 ・よりよい人間関係を育むためにいじめアンケートや「QUTアンケート」を来年度も実施し、児童の実態把握に努める。
	●心の教育	・人権教室の実施 ・教育相談、特別支援教育の充実（支援体制強化）	・人権教室の実施 ・教育相談、特別支援教育の充実（支援体制強化）	・全校単位や学年・グループ単位で参加体験型の人権教室を開催し、人権への意識を啓発することができた。 ・学校評価アンケートで「豊かな心・思いやりのある子ども」に児童は95%以上が回答したが目標値は85%であった。 ・児童支援会を毎月実施し、共通理解を図ることができた。 ・スクールカウンセラー（5月～3月、12回）への相談を受けた。相談件数は増加したが目標値は85%であった。 ・校内支援体制の作成、実行、修正をできた。 ・発達障害についての理解を深め、支援について研修を行った。 ・校内支援委員会を必要に応じて開催できた。	B ・全校単位や学年・グループ単位で参加体験型の人権教室を開催し、人権への意識を啓発することができた。 ・学校評価アンケートで「豊かな心・思いやりのある子ども」に児童は95%以上が回答したが目標値は85%であった。 ・児童支援会を毎月実施し、共通理解を図ることができた。 ・スクールカウンセラー（5月～3月、12回）への相談を受けた。相談件数は増加したが目標値は85%であった。 ・校内支援体制の作成、実行、修正をできた。 ・発達障害についての理解を深め、支援について研修を行った。 ・校内支援委員会を必要に応じて開催できた。	・学校評価アンケートで「豊かな心・思いやりのある子ども」に児童は95%以上が回答したが目標値は85%であった。 ・児童支援会を毎月実施し、共通理解を図ることができた。 ・スクールカウンセラー（5月～3月、12回）への相談を受けた。相談件数は増加したが目標値は85%であった。 ・校内支援体制の作成、実行、修正をできた。 ・発達障害についての理解を深め、支援について研修を行った。 ・校内支援委員会を必要に応じて開催できた。
④「雄飛学園メソッド」に基づいた生活習慣や規律ある行動の定着をめざす。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度 成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	・3つの「あ」の推進と基本的な生活習慣の確立 ・体力の保持増進	・3つの「あ」(あいさつ・あんぜん・ありが)をしっかりと身につけ、児童に健康・安全について意識づけをしていく。「はやね・早起せ・ねこは」児童の意識調査で90%以上、ヘルメット着用100%を指標とする。 ・楽しく運動する習慣を身につけさせる。	・まなざし運動の時、児童に特に取り組みたいことを決めさせ、達成状況を把握する。また、まなざし運動の結果を保護者に伝える。 ・ヘルメット着用について機会をとって話に誘い、意識付けをする。保護者会等を利用して、児童の意識啓発を行う。 ・学年ごとに、児童全員が毎週外で遊ぶ日を設け、実施する。	B ・まなざしカードの記入及び集計をし、保護者に伝えることができた。「はやね・早起せ・ねこは」については、事前指導を継続的に行っていく必要があった。 ・全校児童の生活の時の時、身体教育前ヘルメット着用率はほぼ100%であった。意識調査の結果、94%だった。 ・体力向上の取り組みについては、各クラスで「あそびの日」を設け、元気に外で遊ぶ機会を設けた。一方で、中・高で遊び回り、夜更や動物園などへ行くなどの、まなざし運動の推進がなかなか進んでいない。また、児童の生活の中で、外で遊ぶ機会を設ける児童もいるので、より指導を徹底していく。	・まなざしカードを記入し、生活を振り返るとともに、学校に提出して定期的に振り返る機会を設けていく。 ・ヘルメット着用については、来年度も引き続き、機会を見つけて話に誘って意識を高める。また、生活改善の推進としてヘルメットの着用について指導する。 ・外で遊ぶ際のルールを確認と徹底を図り、安全に遊べる。全員が遊ぶことができて、よりよい生活習慣の確立に努める。
⑤子どもへのまなざし運動と市民性を育む教育を推進する						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度 成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○特別活動	・環境教育の充実(環境ISO)	・85%以上の子どもが環境を守る行動をすることができる。	・「環境ISO」4つのめあての達成ができたが、週1回各クラスで振り返りをする。 ・環境委員会が各学年の取り組み状況を伝える。 ・活動での取り組みの様子を地域・家庭に発信する。	B ・週に1回でできたかなボードで振り返りを行い、取り組み状況を伝えることができた。「電気の使用状況」は、「こまめな分別」が94.5%、「電気の使用状況」が94.0%、「水の節約」が90.3%、「物を大切に」が67.4%であった。 ・活動の振り返りやめあての学習に関しての発信ができた。	・「物を大切にする」＝「自分のものに記名をする」に関しての達成率が低い。全校児童への意識づけや学級での取組みの見直しを図る。
	○地域連携	・まなざし運動と市民性を育む教育の充実	・地域でのまなざし運動と連携し、市民性を育む教育を推進することによって、市民の一員としての意識の向上をめざす。 ・地域行事への参加児童の意識調査で90%以上を指標とする。	・行事の意義や地域と関わることをよさを伝えたり、地域の行事への参加を称賛したりすることで、地域行事への積極的な参加を奨励する。 ・生活学習・総合的な学習の時間では、まなざし運動を展開する地域の人・団体と年2回以上は連携する。	A ・学校評価アンケートで、保護者、児童共に「地域の行事に積極的に参加している」と答えた割合は90%であった。また、市民性に関するアンケートでも、目標値を達成できた。 ・生活学習・総合的な学習の時間での地域・人との交流の場は、ほぼ毎月実施ができていた。 ・子どもたちは普段の生活の中から様子を見たり、なったり、見てもらったりして、地域の中での居心地がよいと感じている。	・公民館との連携がよくとれている。団体や地域の人材との連携をスムーズに取ることができている。公民館との連携をこれからも継続して行っていく。 ・地域の公民館や地域の行事の参加を促す。また、生活学習の時間にも連携して行っていく。 ・生活学習・総合的な学習の時間での地域・人との交流の場は、ほぼ毎月実施ができていた。 ・子どもたちは普段の生活の中から様子を見たり、なったり、見てもらったりして、地域の中での居心地がよいと感じている。

⑥業務改善・教職員の働き方改革の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	●業務改善、教職員の働き方改革の推進	・役割分担と業務の適正化の推進	・業務の精選。 ・校務分掌の適正な配分。 ・時間を意識して働くことの定着。	・外部からの依頼の受け入れを一定の視点をもつて精選する。 ①地域に根ざした教育を推進するため、 の学習指導要領に沿っており児童の学びの 基とするもの。 ③担当教員に過重な負担をかけないもの。 ・校内運営機構への配置について、業務に指 を定め、校務分掌の負担度を可視化し、適 正に業務を割り振る。 ・会議縮減、定時退校日完全実施を推進し、 時間を意識して働くことを定着させる。	A	・外部からの依頼の受け入れについては、まだ改善の余地はあると考えられるが、地域・保護者の方にも理解がとれている様子である。 ・校務分掌については、個人の負担にのみならず、また、平準化につながるよう、部会や協力な方々が取り組む体制を作った。 ・会議縮減については思うより進んでいることができたが、定時退校日完全実施については昨年より推進できた。	・校務分掌の平準化や会議の時間短縮等について、部会の再編成や部会としての活動の推進を働きかけ、部会活動の成果を明確めながら、見直し・確認をすすめていた。 ・業務改善の方法については、トップダウン方式だけでなく、縦横間にも広く声を募ることがより、取組を進めた。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策、向上策
学校運営	○学校経営方針の周知	・学校教育目標の周知徹底 ・学校HP、学校だよりによる情報発信	・保護者、児童、教職員、学校評議員、地域のみなさんに周知徹底し、認知度95%以上をとする。 ・新しい情報は学校HPで発信し、情報は保護者の手元に届ける。学校だよりは行事連発ではなく、校長の経営方針が伝わるものとする。	・全校朝会、PTA総会、地域連携協議会等で学校目標と経営の概要を説明する。また各校舎内各所。学校HPなど常に目につくところに提示し周知を図る。 ・学校HPは主に校長が管理し、重要な情報を迅速に発信し、保護者の重要な状況を把握する。 ・学校だよりは紙面を工夫し、児童の良さ、職員の良さ、地域の良さ等を発信し、学校の応援を促す。	A	・学校評価アンケートで「学校教育方針の周知」項目で95%以上が「そう思う、どちらかといえばそう思う」と回答して折り、目標値を達成できた。 ・保護者や地域の来校者や、学校だよりや学校HPへの関心の高まりがわかること、知名度があがり、児童の様子や教育活動、校長の経営方針にかかわる話等について、機会を捉えて丁寧に伝えるようにしてきた。 ・学校教育方針に関する話題や資料を提示して教職員の共通理解と意識の高揚を図った。	・学校行事や授業参観等の機会を捉えて、意見・感想を求めるアンケート等に記入してもらう。 ・保護者、地域の声や広（集）め、学校経営に生かす。 ・地域の来校者や学校だよりフレットを配布して、学校目標等を理解してもらった。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

保護者アンケート、児童アンケートともに本校教育活動に対しては、今年度も概ね良好な評価だった。学力向上の面では、全国、県の学力調査は課題が多い地域だったが、点数に表れない部分(学習に取り組む姿勢、学習への意欲等)では伸びている点もあり成果としてあげられる。様々な研修の機会・場を設けて教師一人一人の指導力向上を支援。児童が自ら意欲をもって学習や生活に向き合うことができた。小学校時代に培った学習態度や生活態度が、中学校・高校へと引き継がれてきた。学校と家庭・地域との結びつきもこれまで以上に大切に、地域全体子どもたちを育てる環境をより高めていきたい。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目